

スマートシティ実装化支援事業(UDCすみだ)

■都市課題

- ・公園管理コスト増大、夏場の職員の労働管理、公園の快適性向上
- ・地域住民のつながりの強化

■解決方策

- ①公園状況の把握・分析と発信
- ②区民参加による植栽管理
- ③ロボットによる芝生管理

■KPI

- ①暑さ指数のSNS閲覧件数 100件/1回
- ②公園内の状況を区民自ら投稿 5件/月
- ③熱中症リスクの低減 50%

■実証実験の概要・目的

大学に隣接する区立公園「あずま百樹園・キャンパスコモン」を実証フィールドとし、大学のデザイン・ICT等の知見を活用した新たな公園管理手法の実装、地域と大学の交流を通じた賑わいの創出を図る。

■実証実験の内容

1 公園状況の把握・分析と発信

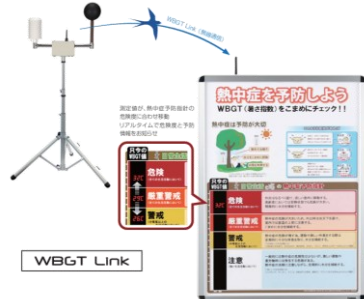
・暑さ指数計及びAIカメラを設置し、リアルタイムで公園内の暑さ・混雑状況を配信し、区民の閲覧状況を検証する。さらに、滞在状況の時間分布を分析し、公園の利用が少ない時間帯等を有効活用して多世代交流を促すイベントを実施する。

2 区民参加による植栽管理

・AIを活用した植栽の病害虫等を判定するシステムを開発し、さらに、区民が公園内の状況を自ら投稿できるシステムとして運用し、区民による投稿を促す。投稿内容を分析し、公園維持管理への効果検証を図る。

3 ロボットによる芝生管理

・夏季(8~9月)における芝生管理業務のロボット化による、職員の屋外作業の低減状況を検証する。また人流分析システムを活用し、ロボット稼働エリアにおける芝生環境の維持に伴う滞留人口の増加(区民の利用増)を検証する。



■実証実験で得られた成果・知見

1 公園状況の把握・分析と発信

- (1)熱中症リスクの発信
SNS(X)閲覧回数 **実績 157 件/1回**
- (2)AIカメラによる行動解析
①混雑状況の閲覧数 **実績 125 件/月**
②人流分析を踏まえたイベント **実績 3件**



あずま百樹園 2026年3月7日 ▲イベントの実施
コフキダケ 強風で枝が折れた?

2 区民参加による植栽管理

- 区民参加による植栽管理システム
投稿件数 **実績 25.2件/月**
区民投稿による異常検知件数 **10件**



◀ 区民投稿

3 ロボットによる芝生管理

- (1)WBGT 31℃以上における屋外作業回避率 **実績 回避率 56.8%**
- (2)ロボット稼働エリアにおける滞留人口の増加 **対前年比+44%**

■今後の予定

①スマート設備の更なる導入

区民が「楽しみながら公園を管理をする」という視点から、区民が利用するシステムの使いやすさ向上を図る。

②人的コストの更なる削減

芝刈りロボットの運用やSNS発信等、依然として人的コストがかかる作業に対し、AIやbotによる自動投稿システム等の導入を図る。